

小児看護学実習計画

[病院]

(1) 実習目的

子どもの成長・発達段階の特徴を理解した上で、個々の健康状態に応じて、子どもと家族がいきいきと生活できるように支援するための基礎的な力を養う。

(2) 実習目標

- ① 個々の子どもの成長発達および生活を総合的に理解し、観察、分析、評価する。
- ② 子どもの発達段階に応じた適切な保育・養育を理解する。
- ③ 子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響をアセスメントし、必要な看護を実践、評価する。
- ④ 子どもや家族に必要な社会資源とその活用方法を理解する。
- ⑤ 他職種を交えたチームにおける看護職の役割を考える。
- ⑥ 子どもや家族との相互作用を通して、自己の看護観を深め、今後の課題を明らかにする。

(3) 実習内容

- ① 子どもの生活を理解する。
- ② 子どもの成長・発達段階を理解する。
 - a. 身体的発育状態
 - b. 精神的発達状態
 - c. 現在受けている保育・養育状況、社会的条件
- ③ 子どもの生活と成長・発達段階を踏まえた上で、健康問題が子どもに与える影響を理解する。
- ④ 子どもの健康的側面を加味した上で、総合的に分析して、子どもと家族のニーズに応じたケア、子どもの権利を尊重したケアを考える。
- ⑤ 上記④のケアを具体的に計画・実践し、行ったケアの結果はどうであったか、子どもと家族の反応を捉えた上で目標が達成できたのは何故か、達成できなかったのは何故か、分析、評価する。
- ⑥ 子どもと家族の生活の質を高めるために、現在利用されている社会資源を把握し、今後必要な社会資源を考え、その活用方法を理解する。
- ⑦ 施設内外における他職種との協働やチームにおける看護職の役割を考える。
- ⑧ 子どもや家族との相互作用を通して、自分がどのように変化したかを考え、今後の課題を明らかにする。

[保育所]

(1) 実習目的

地域で生活する乳幼児の成長発達を理解するとともに、保育所における保健活動を通して、子どもの成長発達や生活を支えるための基礎的な力を養う。

(2) 実習目標

- ① 個々の子どもの成長発達および生活を総合的に理解し、観察、分析、評価する。
- ② 子どもの発達段階に応じた適切な保育・教育を理解する。
- ③ (個としての) 子どもの健康問題を認識し、その家族および集団に及ぼす影響を考える。
(集団として) 集団としての健康課題をアセスメントし、必要な健康教育を実践、評価する。
- ④ 子どもと家族、および、子どもと集団の生活の質を高めるために、必要な社会資源とその活用方法を理解する。
- ⑤ 他職種を交えたチームにおける看護職の役割を考える。
- ⑥ 保育所が地域の子育て支援に果たす役割を理解する。
- ⑦ 子どもとの相互作用を通して、自己の看護観を深め、今後の課題を明らかにする。

(3) 実習内容

- ① 乳幼児の成長発達の特徴を理解し、観察する。
- ② 乳幼児の生活リズムおよび生活習慣の形成過程を理解し、関わりを行う。
- ③ 乳幼児の発達段階に応じた保育を理解し、実施する。
- ④ 乳幼児への保健活動、健康管理、安全管理についてアセスメントし、実施、評価する。
- ⑤ 子どもの権利を尊重した関わりを行う。
- ⑥ 保育所保健の活動を通して、保育所看護職の役割を理解する。
- ⑦ 地域の子どもと親に対する支援について理解する。
- ⑧ 子どもとの相互作用を通して、自分がどのように変化したかを考え、今後の課題を明らかにする。

(4) 実習方法

- ①実習時期：3年次 後期 9～1月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 医療施設1週間と保育所1週間ずつの実習を行う。
 - b. 施設の設備、構造、看護・保育体制、患児の生活像、実習病棟、保育所の概要を知る。
 - c. 医療施設実習では、受け持ち患児を1名決定する。看護場面を担当看護師について見学し、患児への看護活動の実際を知る。
 - d. 保育所では保育士について見学する。
 - e. 受け持ち患者とのコミュニケーションやケアを通して患者を理解し、指導のもとに基本的援助技術を実施する。
 - f. 最終日は実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 小児看護学の実習担当教員が認定評価の責任を負う。
 - b. 実習には小児看護学担当の准教授、助教、助手が担当する。
 - c. 医療施設では学生のユニット毎に教員1名を配置し実習指導に当たる。保育施設では教

員が毎日巡回指導にあたる。

- d. 実習の経過及び指導上の問題については毎日、教授に報告し助言を受けながら指導に当たる。
- c. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
- d. 医療施設の実習では、学生1名が患児1名を受け持つことができるよう臨床指導者・担当教員で事前に準備する。保育所では、小児の発達に応じたかかわりを学べるよう保育士と事前に準備する。
- e. 援助技術実施前、中には実習指導者、担当教員、担当看護師、保育士のいずれかが指導を行う。
- f. 援助技術実施後には、リフレクションの時間をもち、患者野理解、ケアに対して適切な指導を行う。
- g. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミックスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。
- h. 実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。

⑤教員指導体制

東部		地域コーディネーター：A										実習方法及び内容	
		第1グループ			第2グループ			第3グループ		第4グループ			
病院名		赤十字	生協	鳥取医療	中央	生協	赤十字	赤十字	中央	生協	鳥取医療	実習方法及び内容	
実習学生数		2名	2名	2名	3名	2名	2名	2名	3名	2名	2名		
1週	月	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	病院・施設において、患児が過ごす入院環境や通院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患児の疾患や生活背景を施設責任者より説明を受ける。受け持ち患児を決定し、コミュニケーションを図り、患児のケアを実施。
	火	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	水	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	木	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	金	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアを実施し、さらに学びの共有をおこない、疾患をもつ子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

保育所名			浜坂	あすなろ	久松	むつみ	かんろ	わかば台	さとに	湖山	大正	実習方法及び内容
実習学生数			2名	4名	2名	3名	3名	2名	2名	2名	2名	
2週	月	実習	小村				菊原				健全児が過ごす場を理解するため、保育施設のあり方や役割について施設責任者から説明を受け、担当のクラスに参加し、児とコミュニケーションを図る。保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践する。	
	火	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	水	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	木	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	金	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践し、さらに学びの共有をおこない、健全児の発達に影響する環境について考えを深める。子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。	

中部			地域コーディネーター：B				実習方法及び内容		
			第1グループ	第2グループ	第3グループ				第4グループ
病院名			岡本	岡本	厚生	まつだ	厚生	まつだ	
実習学生数			5名	5名	4名	4名	4名	4名	
1週	月	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	病院・施設において、患児が過ごす入院環境や通院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患児の疾患や生活背景を施設責任者より説明を受ける。受け持ち患児を決定し、コミュニケーションを図り、患児のケアを実施。
	火	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアの実施
	水	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアの実施
	木	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアの実施
	金	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアを実施し、さらに学びの共有をおこない、疾患をもつ子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

			第1グループ	第2グループ	第3グループ	実習方法及び内容
保育所名			鳥取短大附属 保育園	倉吉東保育園	倉吉愛児園	
実習学生数			10名	8名	8名	
2週	月	実習	小村	菊原	菊原	健常児が過ごす場を理解するため、保育施設のあり方や役割について施設責任者から説明を受け、担当のクラスに参加し、児とコミュニケーションを図る。保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践する。
	火	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	水	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	木	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	金	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践し、さらに学びの共有をおこない、健常児の発達に影響する環境について考えを深める。子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

西部			地域コーディネーター：C					実習方法及び内容	
			第1グループ			第2グループ	第3グループ		
病院名			労災	松江医療センター	総合療育センター	総合療育センター	労災	総合療育センター	実習方法及び内容
実習学生数			5名	4名	6名	6名	5名	6名	
1週	月	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	病院・施設において、患児が過ごす入院環境や通院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患児の疾患や生活背景を施設責任者より説明を受ける。受け持ち患児を決定し、コミュニケーションを図り、患児のケアを実施。
	火	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	水	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	木	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	金	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアを実施し、さらに学びの共有をおこない、疾患をもつ子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

			第1グループ					第2グループ	第3グループ		実習方法及び内容	
			ズ保育園ベアー	ル園よどえババー	かみごとう	キッズタウン第2保育園	キッズタウンさくら保育園	いづみ保育園	いづみ保育園	わかば園		
実習学生数			4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名			
2週	月	実習	小村			菊原		小村	小村		健常児が過ごす場を理解するため、保育施設のあり方や役割について施設責任者から説明を受け、担当のクラスに参加し、児とコミュニケーションを図る。保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践する。	
	火	実習	小村			菊原		小村	小村		保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	

	水	実習	小村	菊原	小村	小村	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	木	実習	小村	菊原	小村	小村	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	金	実習	小村	菊原	小村	小村	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践し、さらに学びの共有をおこない、健常児の発達に影響する環境について考えを深める。子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。